

放射性物質全域調査及び土壌回収作業進捗状況(平成20年11月)

実施項目		実績(11月)	予定(12月)
所内 全域 調査	1. 第1次調査	(完了)	
	2. 第2次調査	施設S(S棟南側)にて放射線測定とボーリング調査を実施	なし
土 壌 回 収 作 業	1. 回収計画立案	(完了)	
	2. 準備作業	なし	
	3. 回収作業	鉱石由来土壌回収場所での回収作業を継続	同左
	4. 回収土壌などの保管	11月30日現在、精製済ウランを含有する土壌などを1.5m ³ 角型容器で241個(注1)(200リットルドラム缶換算1,808本)回収し、地下保管庫(施設N)に保管。鉱石由来のウラン、トリウムを含有する土壌などを1.5m ³ 角型容器で824個(注1)回収し、196個をS棟に、628個を開発A棟に保管	回収してS棟に保管している鉱石由来のウラン、トリウムを含有する土壌などを仮設テントに移動
	5. 行政庁への手続き	施設Sと作業用テントCの解体撤去手続きについてヒアリング。11月28日に使用状況調査が行われ、作業用テントCでの回収作業完了を確認	施設Sと作業用テントCの解体撤去手続きとして核燃料物質使用許可変更を申請
そ の 他	1. 環境モニタリング	空間線量当量率及び空気中の放射性物質濃度の測定。地下水の採取と分析	同左
	2. 放射性廃棄物の保管(注2) (地下保管庫)	11月30日現在、200リットルドラム缶152本、1.5m ³ 角型容器2,997個、2m ³ 角型容器828個、200リットルドラム缶換算で合計30,910本を地下保管庫(施設N)に保管。なお、地下保管庫にはNDC社が、1.5m ³ 角型容器で1,180個(200リットルドラム缶換算8,850本)を保管	

(注1) 回収作業を開始してからの累計で示します。

(注2) 「旧核燃料試験研究施設整備」のものに加えて土壌回収作業での回収土壌なども含みません。

以上